

ブラジルのサンパウロで開かれていた世界鉄鋼協会（WSA）の年次総会が現地時間8日夕に閉幕した。2日間にわたる議論で繰り返し話題になったのが、世界の鉄鋼業にのしかかる能力過剰。世界の鋼材需要が年間15億ト程度、一方、能力過剰が5億トにのぼるとの見方も出ているが、解消に妙案は無い。参加した経営者からは懸念の声が相次いだ。

「中国の鋼材需要の伸びが鈍れば、韓国や東南アジアへの輸出が増加して市況に影響する」

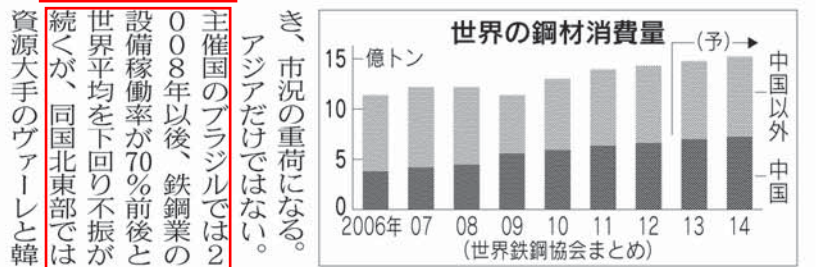
9日付でWSA会長に就任した韓国大手、ポス

生産能力過剰 解消遠く

鉄鋼世界大手幹部が危機感

世界鉄鋼協会の新会長として会見するポスコの鄭俊陽会長（左）（7日、サンパウロ）

Worldsteel ASSOCIATION



中国の需要減速も重荷に

国の東国製鋼、ポスコが合併製鉄所を建設中。ウアーレのジョゼ・マルティンス取締役は「計画通り2年後か2年半後の稼働を目指す」という。

世界を見渡せば一足元で生産が高水準の日本が例外的」（神戸製鋼所の川崎博也社長）。積極的な拡大策で名をはせた欧州アルセロール・ミタルのラクシュミ・ミタル最高経営責任者（CEO）も、ブラジル製鉄所の高炉の再稼働について聞かれると「全ては市況次第」となすべがない。

能力過剰を解消する糸口は見えない。世界需要は生産の半分を占める中国の東国製鋼、ポスコが合併製鉄所を建設中。ウアーレのジョゼ・マルティンス取締役は「計画通り2年後か2年半後の稼働を目指す」という。

国は、かつて10%を超えていた鋼材需要の増加率が減速。WSAは14年に2・9%にとどまると予想した。全世界の増加率（3・3%）を下回るという見方だ。

雇用への影響を懸念する地方政府は中小鉄鋼業の再編や整理に消極的とされ、「中国大手の経営者はギャップ解消に10年はかかる」（新日鉄住金の宗岡正二会長）。

業界団体であるWSAはもともと価格維持と裏表の関係にある能力削減を議論できない。各国の独占禁止法に触れる恐れがあるからだ。

米マッキンゼー・アン（サンパウロ）壇上談）

ド・カンパニーのシグルド・マレーン氏は「他の産業では、政府が関与し法的問題をクリアしながら能力削減した事例もある」と指摘した。世界の大手鉄鋼業のうち、好況時でも現金収支が赤字だった会社が3割以上あると指摘。世界の鉄鋼業は持続可能な状態ではないという主張だ。

需要増加の減速と、供給過剰の継続という二重苦が続くような世界の鉄鋼業界。政府が保護主義的な動きに出る国も相次いでおり、さらなる重荷が加わることも懸念されている。